



巻頭言

自己変革のとき



大 路 清 嗣*

1984年3月ゴルバチョフ氏がソ連共産党書記長に就任し、ペレストロイカとグラスノスチをスローガンに、ソ連社会のリフォームにのり出したが、共産主義社会は次々とその弱点と矛盾を露呈し、1989年夏から秋にかけて東欧の民主化革命が進行した。またその象徴としてのベルリンの壁の崩壊（1989-11-9）後、たった11ヶ月で東西両ドイツの統一が実現した。1917年、11月革命で誕生したソ連共産党政権も遂に1991年8月あえなく瓦解し、共産党は解散した。世界の共産主義政権は音を立てて崩れ去ろうとしている。

豊かな暮らしと自由の回復に対する願望を引金とした東側社会の民主化革命ではあったが、待っていたのは混乱といばらの道である。困難に耐え、自助努力を中心に、民主主義と競争原理にもとづく政治・経済システムを整え、豊かな暮らしを実現するまでにはまだまだ時間がかかる。

経済競争に勝った西側社会も安泰ではない。アメリカは貿易と財政の大きな赤字をかかえ、ドイツは東西ドイツ統一の重荷を背負い、共にかつての力はない。好調な日本も古い体質と巨額の黒字が不安定要因となりかねない。

*Kiyotsugu OHJI
1932年1月17日生
昭和33年京都大学大学院工学研究科博士課程
機械工学専攻修了
現在、大阪大学工学部長、教授、工学博士、
材料強度学、TEL 06-877-5111

情報網と交通手段の発達、経済規模の拡大は地球を小さく狭いものにした。世界は政治・経済・文化の格差をもったままひとつに結びつけられ、相互依存、ボーダレスの体質を強めている。貧しい国の破産が富める国の恐慌を引き起しかねない。まさに宇宙船地球号である。

日本社会も内部に大きな矛盾をはらんでい。リクルート事件、銀行不正、損失補てん、特定利害関係の定着などはその典型的現われである。経済規模が世界GNPの十数%を占める現在、それがほんの二、三%であった頃の体制と思考・行動様式にしがみついている。地球号に乗組む資格がない。一日も早くわれわれの体制と思考・行動様式を柔軟性を持ち、いかなるショックにも耐え、しかも世界にも通用するものに改めなければならない。今、これまで持ち続けてきた利益誘導・調整型の思考・行動様式を脱し、世界共通のルールと価値観のもと、大胆に理想をかかげ、将来のビジョンを持って、自らのイニシアティブで一步でもそれに近づこうとする思考・行動様式に自己を変革する必要がある。

痛みは伴うだろうが、変革は若さと柔軟性が残っているうちにしなければならない。勇気をもって、公正な社会、理想を目指す社会を築くためまず一步をふみ出し、自らを改めて行こう。